

# 希



# い

育成会だより

第93号令和元年年6月 発行

東大阪市手をつなぐ育成会

(年 3回)

(題字 吉岡名誉顧問)

## 総会を終えて

### なぜ「啓発キャラバン隊？」

会長 坂本 ヒロ子

5月29日総会を開催し、承認され、令和元年度の活動が開始しました。

今年度の大きな活動に「啓発キャラバン隊」を結成し、知的障害のある人のことをより多くの人に理解いただけるよう努めることをかけました。

今まで、知的障害のある人の理解啓発講演依頼を受けた時、平成25年に作成した「災害時、知的障害のある人を見かけたら」を使用しながら行ってきましたし、障害者差別解消法が制定されてからは、東大阪市福祉部障害支援室と東大阪市自立支援協議会権利擁護部会が主催して開催している「ちょっと聞いて！ 私の障害（こまりごと）」の車座ワークショップにも協力してきました。

では、なぜ今「キャラバン隊」を東大阪市手をつなぐ育成会で結成しようと思ったか、なぜ学校における理解啓発に重点をおいて進めていきたいと思ったか？

成年後見制度、障害者虐待防止法、日中支援、夜間支援、余暇支援等のサービスは充実してきました。しかし、それだけでいいでしょうか？

私達の子が日常の生活を豊かにするためには、日頃、気にかけて見守ってくれる人を身近な地域に増やすことが大切です。

この東大阪市においてもまだまだ無理解や偏見があったり、不審者と勘違いされることがあったりします。これらは、理解が深まれば問題も減っていくと思われれます。

また、擬似体験することで、

- ・知的障害者の障害（こまりごと）を体験することができる。
- ・声の掛け方、接し方のヒントになる。
- ・一方的な知識の伝達ではないので理解してもらいやすい等があげられます。

幼少期からの理解は、将来の「気づき」や「思い」につながるができると考えられるので、学校における理解啓発に重点をおいて進めていきたいと思っています。

これから楽しく進めていけたらと思っております。7月23日(火)10:30から東大阪市社会福祉協議会会議室で全日本手をつなぐ育成会権利擁護センターのメンバーの一人関哉直人弁護士に各地で展開されているキャラバン隊の様子をお話していただく研修会を企画しています。キャラバン隊とはどんなものか興味のある方は是非ご参加下さい。

## 全国手をつなぐ育成会連合会の「今」と「これから」

### 久保 厚子会長の話聞いて

黒崎 陸子（東福六万寺保護者）

4月16日、久しぶりに全国手をつなぐ育成会連合会の久保会長のお話を聞きに行きました。

いつも穏やかで人の心を包み込んで下さるような静かな方が、どこにあの細い身体で、子どもたちの為に、何にも屈しないパワーがおりなのかと尊敬の念を持ってお聞きしました。

私達が心配している社会の現状が、連合会でも同じように我が子と私の利益さえよければいいという風潮になっていること、いつか社会が共生社会として成熟して行けば、育成会のような全国組織が必要ないと云われ議論されるかも知れないが、実体はまだまだそのような現状ではない（やまゆり園事件のように）と話されました。

私達の愛する家族が一人一人の人間として、生きがいを持って生活していたら、そして職員の皆さんもそう感じていて下さったら、あのような事件は起こらなかったのではと仲間とよく話します。

私事ですが、昨年入院した時“あなたは体一つで入院を あとは私達が・・・”と多くの仲間が助けて下さいました。その時、親の会はつながっていると感じ、生きる力と勇気をいただきました。

久保会長に、その時のお話しすると、そのようなグループがたくさんあれば、それが子どもたちを支える力になると云って下さいました。資料にも信頼出来る仲間との関係こそがこれからの時代の資産であり、それをどれだけ貯められるかが豊かさの指標になると云われていますと書かれています。

私達育成会は、本来お互いを理解しあい、障害のある我が子の幸せを求めて仲間として存在している会です。

坂本会長は、常に自助努力なくして共助、公助はあり得ないと又、出来る人が出来る時に出来ることをしましょうとおっしゃっています。

昨年はなつかしい仲間を多くなくしました。残していかれたご家族を少しでも支える努力をしていきたいと思えます。

常に原点にもどり、何を目ざしたのかを自らに問いかけ、まわりに問いかけていかなければならないとお話を結ばれました。

## 平成31年度全国大会『きょうだい分科会』

副会長 加納 佳子

今回の全国大会で初めて『きょうだい分科会』が開催されました。今まで『きょうだい』と言うと、育ちに歪みが出て来る事のみ耳にしていたましたが、大人の『きょうだい』は、側でずっと見てきたからこそ、分かる障害の子と親の問題点を一番分かっていると気づきました。「親は半世、きょうだいは一生」と語っておられ、親には見えていない事が沢山あると知りました。

内容は、下記のとおりです。

<幼児期～思春期> 松本理紗氏・乾芽莉氏

『きょうだい』は、手のかかる障害のきょうだいのため、親に素直に甘えにくい環境にあり、また、社会経験（友達遊びや公共の乗り物や施設経験）が乏しくなりがちで、そのため、自己肯定感が低くなり、アダルトチルドレンになりがちです。

乾氏によると「時々でいいから、お母さんを独り占めしたい」「優しいと言われるのが嫌」という子が多いそうです。

そのため、思春期になると不安定になり、不登校やひきこもりになる方も多い様です。職業選択の時、福祉・教育・医療・保健関係を選ぶ方が73%にも及んでいるようで、障害のきょうだいと切り離して、自分の人生・職業を考える事が難しい様です。

色々な情報を得て、ちゃんと自分の人生を生きて行ってほしいそうです。

障害児のきょうだいの会として、東大阪市の乾氏の「NPOいちばん星きょうだいの会キラリ」やサイトとして「Sibkoto」があるそうです。

<大人> 笹尾照美氏（伊丹市） 田部井恒雄氏（川崎市）

笹尾氏は親と障害の姉のダブルケアに苦勞されたそうです。

GHは、日中施設に通えなくなると出る様に促されたそうです。

高齢知的障害者に対して、健常者の定年後のライフワークスタイルに相当するモデルが必要で、終末期には公的サポートが必要であると語られていました。

田部井氏は「全国障害者とともに歩む兄弟姉妹会」の会長をなさっています。親と障害者の「共依存」はダメである～と力説されていました。

### 【共依存の悪影響】

親：子が生きがい→「子」の自立を真剣に考えようとしな

親の思い通りにして「子」の意思を尊重しない

子：

- ・親のそばを離れようとしな
- ・親以外に信頼できる人がいない
- ・経験が圧倒的に少ない
- 自立できない

きょうだい：「親が支援できなくなった時」いきなり大きな負担がかかる

- ・親が元気な時、「親なき後」の事を聞いても親が答えてくれない
- ・最後はきょうだいに頼る

## 【予防のため】

- 親：
- ・将来の見通しについて学ぶ
  - ・支援の輪をつくる
  - ・「子育て以外」の生きがいや趣味を持つ

きょうだい：・親に内緒にしてでも、支援者を見つけ、直接相談して、助言や支援を得る

最後に、松本氏が渡辺伸氏（行政書士）の下記のお話を強調されていました。

◎できれば、きょうだいなどを全面的に頼るのでなく、別の生活の場を設定した上で、いつでも会って話ができるという普通のきょうだいや親族との関係を障害者の場合もつくってあげればと思います。

◎『親心の記録』e t cを書きましょう。



## レクリエーション部会

5月19日の玉ねぎ掘りに、親子で参加された大井さんから感想をいただきましたのでご紹介します。

先日は、たまねぎ掘りに参加された方、また、お世話いただいた皆様お疲れさまでした。

楽しく過ごさせていただきました。

子供は、毎年参加させてもらえる事をとて楽しみにしています。

バスの車中を最高の笑顔で、食事もうれしそうに食べてくれていました。

昨年は、土をさわったりすることが少し抵抗（なれない事）があるように思いましたが、今年は昨年経験した事が頭の中にあり、要領を覚えていてくれたのか、自分で出来る事が増えてうれしく思いました。

もっともっと色々な事を経験させてあげられたらなと思います。

また、たくさんの玉ねぎの入った袋を持ってくれ、たくましくなったと思い、楽しい一日を過ごしてくれてうれしいです。

子供は家に帰ってうれしそうに「お母さん、楽しかった」と言っていました。

また、来年も参加させていただきたいと思います。

皆様お疲れ様でした。

大井 由美子(とうふく保護者)

## \*今後の予定\*

◆7月28日(日) 10時~12時

ポッチャでからだをうごかそう!!

レピラ 5F 定員20名

受付期間 7/16~7/19

◆8月12日(月・祝) 10時~14時

室内バーベキュー 先着30名

若江岩田駅前プラザ 5F 調理室

受付期間 8/1~8/7

……編集後記……

先日、ガイドヘルパーの仕事で、利用者さんと通学路を歩いていると、後ろから5、6人の小学生が来ていたので「お先にどうぞ。」と道を譲ると高学年の女の子が立ち止まって、戸惑いながら「がんばって下さい。」と言われ、私は「ありがとう！頑張ります。」と答えました。後で、家族の中に障害者がいるのかなと思ったりしましたが、彼女の勇気ある言葉が嬉しかったです。障害者理解の為、自分にできることをやっていきたいと思いました。(坂田)